

目的 より良い妊婦服設計のために、妊婦の月令変化を最終月経より起算して9週目から4週間毎に37週目までと、出産35時間前との9回にわたって計測し、その変化の特質をとらえた。

方法 被験者は初産の27才の健康な女性1名で、着衣による誤差を除くために最低限の着用状態とした。計測方法は、実測、スライディングゲージ(横断・縦断)、シルエッター、モアレの4方法を用いた。

結果 ①実測：身体計測値からは、周径、矢状径において大きな変化がみられ、特に21・29・33・37週においての増加率が高くみとめられる。高径における変化は当然のことながらわずかである。②スライディングゲージ：横断、縦断とも21週以降に大きな変化がみとめられる。最小腹圍、臍点、最大腹圍と臍子点では矢状径の増加が大きく、幅径での増加はわずかである。後腋点、乳頭点でも29週から矢状径の増加がみられる。横断・縦断面の形状と重合図より姿勢の変化が確認され、特に37週と出産35時間前では最小腹圍と臍点位で前方へ突出する傾向がはっきりとみとめられる。③シルエッター：全身的な姿勢の変化と最小腹圍、腸骨稜圍前厚径、乳房部の変化が顕著にとらえられる。背入角の増加とヒップエイジの減少がみとめられ、姿勢の変化に伴う上半身の反身化が観察された。④モアレ：前面における縞次数が月令を追うに従って増加し、乳房部から腹部前面にかけての変化がリアルに表出し、前・後正中線における縦断面からは姿勢の変化と腹部前突の変化がとらえられた。